



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL: 03-5363-3802 FAX: 03-3355-4707
発行者：今野弘之
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
和田則仁（慶應義塾大学医学部外科学教室）
印刷：株式会社 dig TEL: 03-3551-3060
年 2 回発行 1995 年 4 月創刊

ごあいさつ

万国外科学会日本支部長
浜松医科大学 学長
President of ISDS
今野 弘之



毎日のトップニュースがコロナ感染者の増加という中で、この挨拶文を書いています。ニュースレターに掲載されるころには、この騒動が終息に向かっていることを期待していますが、日々感染者が増えている現状では、季節が変わるのを待つしかないのかもしれないかもしれません。

さて、先生方におかれましては、ISS/SIC 日本支部の活動にご協力いただき、改めて感謝申し上げます。前回のニュースレターでは Krakow で開催された第 48 回 ISW のご報告を致しましたが、来年の第 49 回 ISW は Kuala Lumpur で開催されます。昨年はちょうどお盆の時期と重なり、ご迷惑をおかけしましたが、今回は 8 月 28 日土曜からですし、距離的にもだいぶ近く、直行便で 7 時間強です。Yokohama Award も継続して実施予定ですし、当地での Japan Night も予定していますので、先生方におかれましては是非ご参加を頂く様、お願い致します。

昨年の Krakow の WCS もポーランド外科学会との共催で、726 名ものポー

ランド外科学会会員が参加し、大いに盛り上がりました。彼らはとても熱心で、例えば ISDS で初めて企画した Tumor Board like session には多くのポーランド外科医が参加し、討論を熱心に聞き入っていたのが印象的でした。来年の Kuala Lumpur もマレーシア外科学会との共同開催を予定していますので、多くのマレーシア外科医が参加すると思います。さらには、シンガポールなど東南アジア諸国からの参加者も多いものと思います。Local Organizing Committee は、周到的な準備を重ねており、プログラム以外でも Malaysia に因んだ郷土色豊かな企画を準備しているとのことですので、ご家族やグループでも楽しんでいただけるものと思います。

昨年の ISW では IASMEN の東口先生と ISDS の私の日本人 2 人が会長を務めました。現在は IAES の宮内先生が会長を務められています。今後とも integrated society の中から継続して日本人の会長が誕生することが望ましいと考えていますので、ご協力の程宜しくお願いします。

さて、ISS/SIC Japan として長年に渡り、監事としてご尽力頂いた下関市立市民病院 理事長・病院長 田中雅夫先生、日本医科大学 名誉学長 田尻 孝先生に改めて感謝申し上げます、感謝状を送付いたしました。そして新たに、東北大学大学院教授 海野倫明先生、藤田医科大学教授 東口高志先生に監事へのご就任をお願いすることに致しました。お二人ともご快諾頂き、早速最初の仕事として本年度会計監査を行って頂きました。

今後の ISS/SIC Japan は ISS/SIC の主要 Chapter として、積極的に活動を展開してゆくつもりですので、皆様におかれましては、今後とも、ご支援、ご協力をお願い致します。

第 48 回 WCS2019 参加記

— The International Association for Trauma Surgery and Intensive Care (IATSIC) の活動について—

東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
救急医学領域長

大友 康裕



昨年 8 月にポーランドの古都 Krakow で開催された第 48 回 WCS2019 に参加させて頂きました。会では、万国外科学会日本支部長の浜松医科大学 今野弘之先生、日本支部事務局長の慶應義塾大学 和田則仁先生には大変お世話になりました。ありがとうございました。私からは、ISS/SIC コレクティブメンバーソサエティーである IASTIC の活動についてご報告申し上げます。

IATSIC は 1989 年に設立され、外傷外科・外科集中治療領域の専門家による最もアクティブな国際学会に発展しております。会員は、世界各国の外傷救急外科医（いわゆる Acute Care Surgeon）、麻酔科医、集中治療医で構成されております。2011 年横浜で開催された第 42 回 ISW2011 の大会長であった Ken Boffard 教授（現 ISS/SIC, Secretary General）は、発足当初から中心的な役割を果たしております。IATSIC の重要な活動として、低中所得国および高所得国における外傷診療教育の開発と実施があります。特に、Definitive Surgical Trauma Care (DSTC) コースは、動物およびご遺体を使った外傷外科手術の実践的なトレーニングコースで、世界各地で開催されております。日本でも 10 回以上のコースが開催され、毎回、Ken Boffard 教授が来日して直接指導を頂いております（図 1）。最近では、外傷手術の麻酔に従事する麻酔科医を対象とした Definitive Anaesthetic Trauma Care (DATC) コースも開催されております。また WHO との強いつながりを通じて、WHO が発刊する

外傷診療の国際的ガイドラインの実質的な執筆・編集を行っております（図 2）。

今回の Krakow での学術集会では、最新の外傷外科治療のトピックスが数多く発表されるとともに、低中所得国や発展途上国での外傷診療・外科治療も重要なテーマとして扱っており、Alliance for Surgery and Anesthesia Presence (ASAP) (ISS/SIC コレクティブメンバーソサエティー) との強い連携が提案されておりました。特筆すべき点として、学会長の Christine Gaarder 教授（ノルウェー）の強い希望により、前日の 11 日に IATSIC の今後のあり方を議論する Workshop が開催されました（図 3）。“Research”, “Social Media and Network”, “Education”, “Trauma in 10 years” の 4 つのテーマで、熱心な討論が展開され、今後 3 つの Ad hoc 小委員会を設置し、また WHO のガイドラインの改定などに取り組んで行く事となりました。

13 日の IATSIC/ASAP 合同のディナーは、丘の上の古城を使ったレストランで開催されました。ヴィスワ川を眼下にした、非常に眺望の良い場所で、日本からの多くの参加者も大いに楽しんでいました（図 4）。



図 1 Ken Boffard 教授自ら指導



図 2 WHO 外傷診療ガイドライン



図 3 IATSIC Workshop



図 4 IATSIC / ASAP Dinner 日本人参加者で



図 5 ASAP 会長 Russell Gruen 教授（オーストラリア）と

万国外科学会の思い出

国際医療福祉大学病院
消化器・一般外科
教授

吉田 昌



私は、ようやく、国際学会を Scientific にも Social にも楽しめるようになってきました。1993 年に大阪で開かれた、International Symposium on gastroenterology に参加して以来、国際学会のみで 60 回、筆頭演者として発表してきました。実にその多くが、ホテルの自室にこもって雑多な作業をし、学会発表のみをして帰国する、というパターンであったのです。どの国の何の学会に参加したのか、記憶に定かではない、というのが私の実態なのです。しかし、この原稿を書く機会をいただいて記録を確認すると、ISS/SIC 関連の学会では、記憶に残る学会が少なからずあることが分かりました。

2004 年に横浜で開かれた ISDS では、”The Appearance of the Cardia, Helicobacter Pylori Infection and Histological Typing of the Gastric Cancer” という演題名で報告しましたが、この時はまだ ISDS が ISS/SIC の International Surgical Week (ISW) の中で学会を行う以前であったので、今思えば貴重な経験でありました。この演題は、当時、内視鏡所見で整理されていなかった知見を整理したものでありましたが、データを整理してゆくと、一般に考えられていたとは異なる新知見が、理にかなった形で整理されて興奮したのを思い出します。翌 2005 年には南アフリカの Durban で開かれた ISW に参加しました。この年は、ISS/SIC の President が Siewert 先生から北島政樹先生に交代となった重要な年で、記憶に残る学会となりました。北川雄光先生・和田則仁先生などとサファリツアーに出かけたことを昨日のように思い出します。この学会の直後に、私の留学先の恩師であった、University of California, Irvine の Prof. Szabo が、Budapest (Hungary) で meeting を開いたので、北島先生と Durban から Budapest へ向かいました。この時のエピソードは忘れられないものです。まず、Johannesburg で飛行機の乗り換えがありましたが、私は何も考えずにいつもの通りエコノミーの後方座席にいました。飛行機が遅れてしまい、乗り継ぎ時間がすくなくなりました。ゲートが閉められてしまうところでしたが、ビジネスクラスにいた北島先生が、ゲートを閉めないようにお願いして待ってくれていたのです。最後方から来た私も無事飛行機に乗ることができたのです。さらに、Budapest 便にもう一度乗り換える必要がありましたが、この時、飛行機で CA に預けた北島先生の上着が無くなってしまったのです。飛行場で何か所も窓口を回って、上着の所在が確認できたら、送ってもらう手続きをし、Budapest へ向かいました。ところが、Budapest で北島先生の手荷物が出てこなかったのです。Lost baggage の手続きをしてホテルへむかいました。北島先生の御講演のために、Budapest でネクタイを買って無事、御講演を終えられました。無事手荷物がホテルに届くと、Budapest で買ったネクタイを北島先生から頂きました。このネクタイは私のお気に入りのネクタイであり、今でも重要な講演などを行う時に着用し、北島先生のお力を感じながら発表しています。

2006 年にも ISDS (Rome, Italy) に出席し、比企能樹先生御司会のもと、胃癌の内視鏡治療について発表させていただきました。ISDS が ISW の中で行われるようになったのが、2009 年からであったので、ISDS 単独の学会に参加したのは、これが最後となりました。2007 年に 32th Annual Scientific Meeting of the Royal College of Surgeons of Thailand の中で”ISS Lecture”があり、腹腔鏡補助下胃切除術におけるセンチネルノードマッピングについて講演をしました。このころから、私の研究テーマの中心に蛍光ガイド手術が入り始めてきました。Indocyanine Green (ICG) 蛍光法による蛍光ガイド手術の論文による報告は、消化管では 2008 年の Kusano らが初めてであり、このころにその源流があります。このころから、北島政樹先生の御指導のもと、高知大学の佐藤隆幸先生が中心となって開発されてきた、世界初のカラー・明視野蛍光カメラの HyperEye Medical System (HEMS) の開発に参画し、2010 年に一般に発売されました。2011 年に横浜で行われた ISW (President: Prof. Ken Boffard, President of the Local Organizing Committee: Prof. Masahiko Watanabe) でも HEMS を使用した ICG 蛍光法による胃癌でのセンチネルノードマッピングについて報



図1 左から、木下貴之先生、北島政樹先生、島津元秀先生、筆者

告しました。2013 年に Helsinki, Finland で行われた ISW は、北島政樹先生が ISS/SIC の Honorary Member (図 2) に選出され、ISDS の Best Free Paper に送られる Kitajima Prize (図 3) が創設されたことなど、印象深い学会でありました。その後 2017 年の Basel, Switzerland で行われた、47th World Congress of Surgery (WCS) では、HEMS に加えて、世界初のフルカラー蛍光腹腔鏡である、PINPOINT を用いた検討も発表内容に追加し、2019 年の Krakow, Poland での 48th WCS での発表には、フルカラー蛍光腹腔鏡で励起光の強度が調節可能、蛍光強度を手術中に計測可能な VISIONSENCE を用いた検討も加えて報告しました。WCS での報告記録を振り返ると、近年の蛍光ガイド手術にまつわる器械の開発が加速度をもって進んでいることがあらためて実感されます。また、48 回 WCS は、北島政樹先生がいらっしゃらない初めての会となりました。大変寂しく感じた一方で、今野弘之先生が無事 ISDS の President の任期を満了し、Vice President に馬場秀夫先生がいらっしゃり、あらたに田邊 稔先生が選出されるなど、今後に希望を感じる会になりました。これからも ISS/SIC の学会に積極的に参加し、勉強をしてゆきたいと思っています。



図2. 北島政樹先生が 2013 年に ISS/SIC の Honorary Member に



図3. 2013 年最初の Kitajima Prize Winner, Dr. M. Allaix, Chicago, USA と北島政樹先生



株式会社ツムラ

<https://www.tsumura.co.jp/>

●資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。
【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970
【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

クラクフでの万国外科学会 ～温故知新の旅～

日本バプテスト病院
消化管外科 一般外科
副部長

大越 香江



48 回 World Congress of Surgery（WCS）が 2019 年 8 月 11 日から 15 日までポーランドのクラクフで開催されました。

まず、私の共同研究者である深見佳代先生（鳥羽商船高等専門学校）によって複数の大学による医学部女子受験生の入試差別問題についての口演に立ち会いました。発表後に様々なディスカッションが生じました。「入試差別に対して、どのように抗議をしているのか、どのような団体が抗議を表明しているのか」などという質問がありました。「そもそも外科が男性にも人気がない」というお国柄を紹介された方もいました。一方で、「日本にはもう差別はない」という日本人男性からのコメントもありました。いずれにしても、入試の際の男女差別は許されないというのが国際的な共通認識であると確認できました。

私自身は「消化器外科女性医師の活躍を応援する会」における託児付きの手術セミナー、および小学生対象のキッズセミナーに関して発表しました。特に母親が外科医である場合、なかなか週末のセミナーには参加しにくいものですが、親子で楽しくそれぞれがセミナーに同伴できるという試みです。セミナー後のアンケートでは、保護者と子どもたちにたいへん好評であり、77.8% の子どもが外科医になりたいと回答しました。座長の先生が、「女性外科医の子どもは女性が外科医であることが当たり前だと思っている」という例を挙げて、ロールモデルの重要性についてコメントされました。

（注：上記質疑応答・コメントについては、いずれも私の乏しい英語力で聞き取ったものなので、あまり正確ではないかもしれません）

夏休み期間中ということもあり、今回のクラクフ行きには夫と 2 人の子どもたちを同伴しました。クラクフの美しい街並みを堪能し、ヴィエリチカ岩塩坑やアウシュビッツ・ヴィルケナウ強制収容所を訪れましたが、どれも印象的で得難い経験となりました。

また、ワルシャワへ足を伸ばし、マリー・スクロドフスカ＝キュリー博



物館で彼女の業績と足跡を間近で見たことは、私自身、また子どもたちにも大きな刺激になったと思います。彼女は、様々な差別（外国人・女性という二重のマイノリティ）と闘いながら、女性で初めてのノーベル賞を、しかも二度も受賞し、また娘 2 人を育て上げました。その足跡は我々女性外科医とその子どもたちにも示唆を与えてくれると感じました。

私が小学生の時、ヴィエリチカ岩塩坑を塩の結晶の本で、アウシュビッツ・ヴィルケナウ強制収容所をアンネ・フランクの伝記で、マリー・キュリーを「キュリー夫人」の伝記で読んで知りました。いつか訪ねたいとずっと思っていました。幼い頃に書物で出会って強烈な印象を受けた対象を、このような機会に訪問・追体験できたことは大きな喜びでした。私自身だけではなく、同時に、子どもたちの心にも何かを残せたのではないかと思います。

学会での発表や様々な出会いを通じて新しいことを学び、昔学んだことを学び直しました。まさに「温故知新」の旅となりました。書物やインターネットだけでは知り得ない何かが、旅にはあります。またいつの日か機会があれば、万国外科学会で発表し、新たな学びを得たいと考えています。



すべての革新は患者さんのために
CHUGAI 中外製薬 |
Roche A member of the Roche group

at the Front Line
CHUGAI ONCOLOGY

AVASTIN®
bevacizumab

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注1)}ヒト化モノクローナル抗体
生物由来製品、創薬、処方薬医薬品^{注2)}

アバスタチン® 点滴静注用

100mg/4mL
400mg/16mL

AVASTIN®
bevacizumab

ベバシズマブ（遺伝子組換え）注
注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)
注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

（資料請求先）
製造販売元 中外製薬株式会社 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1
ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。
https://www.chugai-pharm.co.jp/

2017年11月作成

視認性と吸収性が求められる術後創へ

ロイコメドC
フィルムドレッシング

ハイドロゲルパッドが
視認性と吸水性を提供

- 創の観察を容易にする視認性
- 湿潤環境を維持するための適度な吸水性
- 固定性と肌への優しさ

THERAPIES. HAND IN HAND.

一般的名称: 救急絆創膏 / 販売名: ロイコメドC フィルムドレッシング / 医療機器届出番号: 13B1X10103000034

TERUMO
テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 2-44-1 www.terumo.co.jp

BSN medical

詳細は添付文書をご参照ください

TERUMOはテルモ株式会社の商標です。
Leukomedはビーエスエヌ・メディカル社（ドイツ）の登録商標です。
©テルモ株式会社 2016年6月

World Congress of Surgery (WCS) 2021

2021 年 8 月 29 日－9 月 2 日 Kuala Lumpur
開催のご案内

2021年8月29日(日)－9月2日(木)の5日間、マレーシアのクアラルンプールにおきまして、World Congress of Surgery・WCS2021が開催されます。日本の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

～クアラルンプール～

地元では「KL（ケーエル）」の愛称で親しまれる首都・クアラルンプール。旧クアラルンプール駅を中心に広がる英国統治時代の美しい建築物とペトロナスツインタワーをはじめとする近代建築と自然が見事に調和された美しい都市です。市内は交通機関が充実しており、主な観光スポットへは公共交通でアクセスが可能です。



<u>主な日程（予定）</u>		学術集会 8月29日～9月2日
8月29日(日)	17:00	オープニングセレモニー・レセプション
	20:00	Japan Night（日本人参加者懇親会）
8月30日(月)	8:00	Travel Scholars 紹介
	19:00	Kuala Lumpur Night（全体懇親会）
8月31日(火)	19:00	ISDS, IAES, IATSIC, BSI, ASAP, IASMEN 各学会夕食会
9月1日(水)	12:15	ISS/SIC 総会

演題登録締め切り 2021 年 1 月 29 日(金)

日本支部のウェブサイトにも随時情報を掲載します。<http://wss-jp.org/>

Yokohama Award

5 名程度 Award 一人当たり 10 万円

ISS/SIC 日本支部は、日本からの若手外科医の WCS の参加を支援しています。
応募条件は、応募時点で 40 歳以下の日本人外科医で、① WCS2021 クアラルンプールに Oral の演題を提出、かつ② ISS/SIC 日本支部会員からの推薦があること、です。

詳細は日本支部のウェブサイトを参照ください <http://www.wss-jp.org/>

会員動向 (2020年3月1日現在)

会 員 数 339 名

内 訳 正 規 会 員 321 名
 シニア会員 26 名
 名 誉 会 員 2 名

支部活動報告（2019年1月～12月）

2019.4.1	万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース第 48 号発行
2019.4.20	第 47 回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 (於：大阪国際会議場)
2019.8.11-15	WCS2019 Krakow 第 4 回 Yokohama Award (WCS2019 Krakow) 表彰 JAPAN NIGHT 開催 (於：Wentzl Restaurant) 参加者：58 名
2019.11.1	万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース第 49 号発行
2019.11.16	第 48 回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 (於：ホテル日航旭ロイヤル)
2019.12	ISS Foundation へ寄附金 1000 ドルを送付 新監事就任依頼 東北大学大学院 教授 海野倫明 先生 藤田医科大学 主任教授 東口高志先生 旧監事 下関市立市民病院 理事長・病院長 田中雅夫先生 日本医科大学 名誉学長 田尻 孝先生 ※旧監事の先生にお礼状送付

2020 年度予算案

2020 年 予算案 (2020 年 1 月 1 日～12 月 31 日) ISS/SIC

日本円の部

單位：円

収入の部	予算額	備考
ドルから預替	700,000	6300 ドル 1 ドル 110 円で計算
広告掲載料	800,000	8 社 x 2 回
寄 付	0	
雑収入	0	
利 息	0	
当期合計	1,500,000	
前年度繰越金	8,975,561	
収 入 合 計	10,475,561	
支出の部		
会 議 費	380,000	支部総会 2 回分
通 信 費	150,000	
印 刷 費	370,000	支部ニュース 2 回発行分
文 具 費	5,000	
交 通 費	40,000	
人 件 費	520,000	
雑 費	15,000	
予 備 費	20,000	
Yokohama Award 賞金		
支 出 合 計	1,500,000	
収支残高 (次年度繰越金)	8,975,561	

ドルの部

単位：ドル

収入の部	予算額	備考
会 費	7,200.00	USD 45 × 166 (2019 年会員支払人数) × 4%チャージ
利 息	0	
繰越金	4,133.83	
収 入 合 計	11,333.83	
支出の部		
日本円へ預替	6,200.00	
ISS Foundation 寄付	1,000.00	
支 出 合 計	7,200.00	
次年度繰越金	4,133.83	

2019 年度決算書

2019 年度収支決算書 (2019 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

日本円の部 単位：円

單位：円

I 収入の部	予算額	決算額	備考
会 費	700,000	700,000	内訳 5014.4 ドル/¥232, 441
広告掲載料	800,000	700,000	
寄 付	0	0	
雑収入	0	80	
当期合計	1,500,000	1,400,080	
前年度繰越金	9,669,479	9,669,479	
収 入 合 計	11,169,479	11,069,559	
II 支出の部			
会 議 費	450,000	417,349	支部総会開催（春・秋）
通 信 費	200,000	144,046	
印刷 費	340,000	361,020	支部ニュース 48 号・49 号
文 具 費	5,000	2,317	
交 通 費	100,000	108,300	
人 件 費	520,000	520,000	
雑 費	15,000	28,006	
予 備 費	20,000	12,960	
Yokohama Award 賞金	500,000	500,000	
支 出 合 計	2,150,000	2,093,998	
収 支 残 高	9,019,479	8,975,561	次年度繰越金

US ドルの部 単位:ドル

I 収入の部	予算額	決算額	備考
--------	-----	-----	----

会 费	7300.00	5014.4	
-----	---------	--------	--

利 息	0	8.86	
前年度繰越金	4443.84	4443.84	
収 入 合 計	11,743.84	9,467.10	
Ⅱ 支出の部			
日本円へ預替	6300.00	4,333.27	日本円の口座に振り込まれた分を差し引いた \$ 4,333.27 を預替
スイス本部への寄附	1000.00	1000.00	
支 出 合 計	7300.00	5,333.27	
次 年 度 繰 越 金	4,443.84	4,133.83	

残高 日本円 8,975,561 円 (通帳残高 8,959,085 円 + 現金 16,476 円)

USドル 4,133.83ドル (通帳残高 4,133.83ドル)

※2011年 ISW2011 横浜より YOKOHAMA AWARD 賞金として余剰金 (7,812,000 円) を寄贈

ISS/SIC 万国外科学会 日本支部

2020年2月5日

監事 東口 高志

2020 年 2 月 19 日

監事 海野倫郎



血液凝固阻止剤

アコアラン® 静注用 600・1800

600国際単位、1800国際単位／バイアル
アンチトロンビン ガンマ (遺伝子組換え) 静注用

ACOALAN® Injection

生物由来製品	処方箋医薬品	(注意:医師等の処方箋により使用すること)	薬価基準収載
--------	--------	-----------------------	--------

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

販売元
一般社団法人
JB 日本血液製剤機構

製造販売元
協和キリン株式会社
東京都千代田区大手町1-9-2

東京港区浜松町2-4-1

2020年1月作成

[文献請求先及び問い合わせ先] 日本血液製剤機構 ぐすり相談室
〒105-6107 東京都港区浜松町2-4-1 医療関係者向け製品情報サイト <https://www.jpbo.or.jp/med/di/>



プロトンポンプ・インヒター
 エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセル・懸濁用顆粒

ネキシウム® カプセル10mg/20mg
 懸濁用顆粒分包10mg/20mg

薬価基準収載	処方箋医薬品 ^(注)
--------	-----------------------

(注) 注意一医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。



Daiichi Sankyo

販売元(文獻請求先及び問い合わせ先を含む)
第一三共株式会社
 東京都中央区日本橋本町3-5-1

製造販売元(資料請求先)
アストラゼネカ株式会社
 大阪市北区大深町3番1号
0120-189-115

(問い合わせ先フリーダイヤル) メディカルインフォメーションセンター)
 2019年11月作成

第 48 回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 議事録

2019 年 11 月 16 日 (土曜日) 午前 7:15~8:00

於: ホテル日航旭ロイヤル 3F ゴールデンパシフィック東

出席者: 井本 滋 大友康裕 片井 均 菊池寛利 北野正剛 小林道也 今野弘之
島田光生 竹内裕也 竹政伊知朗 寺島雅典 中村清吾 馬場秀夫 東口高志 藤村
隆 堀口明彦 松原久裕 宮内 昭 宮澤光男 吉田 昌 和田則仁

(敬称略、五十音順、計 21 名)(事務局: 猪瀬純子)

1、支部長あいさつ 今野弘之日本支部長

2、前回議事録の確認

3、支部活動報告

4、ISS/SI 理事会報告: 今野日本支部長 WCS2019 では 1,214 の演題が登録された。日本からは 91 演題で第 4 位であった。ISS の課題である会員の勧誘に関して、国ごとに会費設定額を変える案があり、インド、中国あたりからメンバーが増えてくる可能性もある。日本の会員数は現在 2 位であるが、ますます日本の立場を確固たるものにするためにも会員数を増やしていきたい。また、次回 2021 年は、8 月 29 日-9 月 2 日にマレーシアのクアラルンプールで開催。参加しやすい場所であるので、さらに参加と協力をお願いしたい。

5、World Congress of Surgery(WCS)2019 報告: 和田日本支部事務局長 ○参加者数 TOP 5 ポーランド 726、USA 207、日本 119、インド 60、オーストラリア 59 ○YOKOHAMA AWARD 8 月 12 日、ICE CONGRESS CENTER にて Presentation of Travel scholars が行われ、AWARD の授与式と各国の受賞者とともに写真撮影が行われた。今回で 4 回目。厳正な審査の結果、5 名が選出された。次回のクアラルンプールに向けて若手の先生方に積極的に働きかけていきたい。○Japan Night 開催 今回はご家族連れで参加している多くの先生方に気持ちよく参加して頂くため、会費制とした。クラクフ中央広場 「レストラン WENTZE」にて。総数 58 名 ドクター 42 名 お連れ様 13 名 お子様 3 名のご参加。

6、Collective Member Societies

■IAES 宮内 昭先生: 次回開催される、WCS クアラルンプールのローカルオーガナ
イジングコミティーのチェアマンであるヒッシュム先生とは、大変親しくさせて頂
いている。マレーシア厚生省の要人であり人望も厚く、安心してクアラルンプールで
の学会に参加して頂けると考えている。2 年間、IAES のプレジデントとして積極的に
活動していきたい。

■IASMEN 東口高志先生: IASMEN のプレジデントとして、2 年間務めさせて頂き、皆
様のご協力ご指導に感謝申し上げたい。極東の日本から国際学会に参加し意見を述べ
るには、フレンドシップとサイエンスアカデミアをアピールしていく必要があると痛

切に感じた。ひき続きパストプレジデントとして日本のコミュニティ増加を目指し、
この度、広報担当として認められた神戸大学の小谷穰治先生と共に積極的な活動を続
けていきたい。オリンピックイヤーである、来年の 7 月には IASMEN の前プレジデ
ントを招待し ERAS のセッションを開催予定。益々の国際的な環境を目指
す。

■IASTIC 大友康裕先生: 日本のメンバーはアメリカについて 2 番目に多い状況にも
関わらず、今までカウンセラーが出ていなかったため、今回新しく帝京大学の藤田先
生がカウンセラーに加わった。WHO のトラウマの診療におけるガイドラインを
IASTIC が作成しており、改訂にむけての話し合いをワークショップにおいて進めた。

■BSI 井本 滋先生: 総会前日に educational course 「innovational surgical
procedure」として、ラジオ波焼灼治療、凍結治療、蛍光法によるセンチネルリンパ節
生検、axillary reverse mapping など講義を担当した。総会は 150 名程度の参加者で
あり、若年者乳癌を主題に手術療法、薬物療法、遺伝カウンセリングなど広範囲の分
野について議論され盛会であった。理事として引き続き活動していく。

■ISDS 今野弘之先生: バイスプレジデント、カウンセラーには日本人も多くアクテ
ィブな布陣となっており、パストプレジデントとして今後も積極的に関わっていきた
い。低所得国への貢献を積極的に行って欲しいとの要望に対し、今回初めて 2 名の
スカラーシップに協力した。クラコウでも、ディスカッションは盛会であり、次のク
アラルンプールでも継続するべく、準備を進めている。

7、機関誌 (WJS) について 片井 均先生: 順調にサブミッションの数は増加してい
る。例年 20% 程度のアクセプトレートだが、今年は 11 パーセント程なのでもう少
し増やしたいとのこと。国別では例年と同じく、中国からが圧倒的に多いが査読をす
ると残念ながらレベルに達してない物が多い。次に米国、日本と続く。General Surgery
の雑誌だが、手術手技に関してはニッチな内容でも採用されるケースが多いので投
稿していただきたい。更に良い雑誌にするため、査読者として "Accept" の評価をされ
た際には Invited Commentary が必要であると書き添えて頂きたい。また、新しいト
ピックなどをエキスパートに著述してもらう 1000 字程度の "The expert opinion" 欄を
もうけることにしたので、これはというエキスパートがいれば事務局に知らせて頂き
たい。雑誌を盛り上げるために、ぜひご協力をお願いしたい。

以上 (文責 和田則仁)